

「産科麻酔分娩」を考えている方へ

陣痛に対する痛みやストレスは、多くの場合、呼吸法やリラククス法で軽くすることが出来ると考えられています。しかし分娩に対する不安や恐怖感の強い方や、痛みに対してストレスを強く感じる方では、ストレスや不安感から分娩の進行が遅れたり、赤ちゃんに悪影響を及ぼすことがあります。経産婦さんでも前回の分娩で陣痛の強いストレスを感じ、今回の分娩に関し不安をお持ちの方では、分娩時の痛みを取り除くことで、より良い分娩につながることもあります。産科的理由、または患者様の希望により、産科麻酔分娩を行います。

最近では麻酔科医による「硬膜外（こうまくがい）産科麻酔分娩」が最も安全な方法だとされています。硬膜外腔にカテーテル（柔らかいチューブ）をいれて、そこから麻酔薬を少量ずつ注入することにより、出産時の痛みを和らげる方法です。

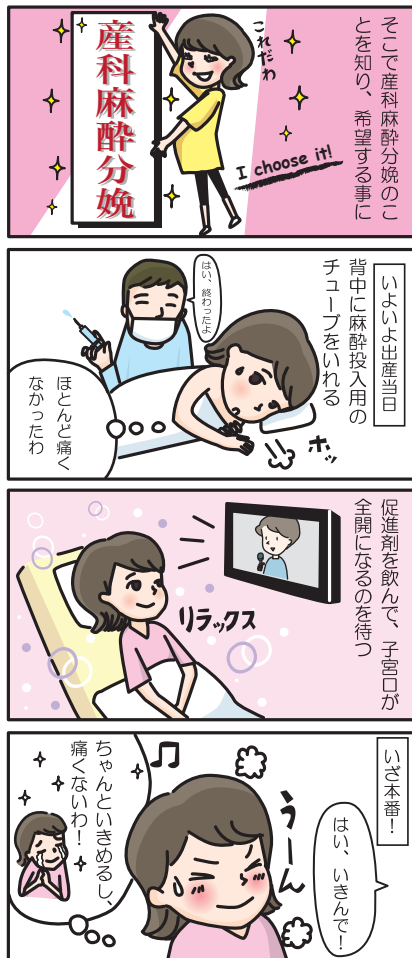
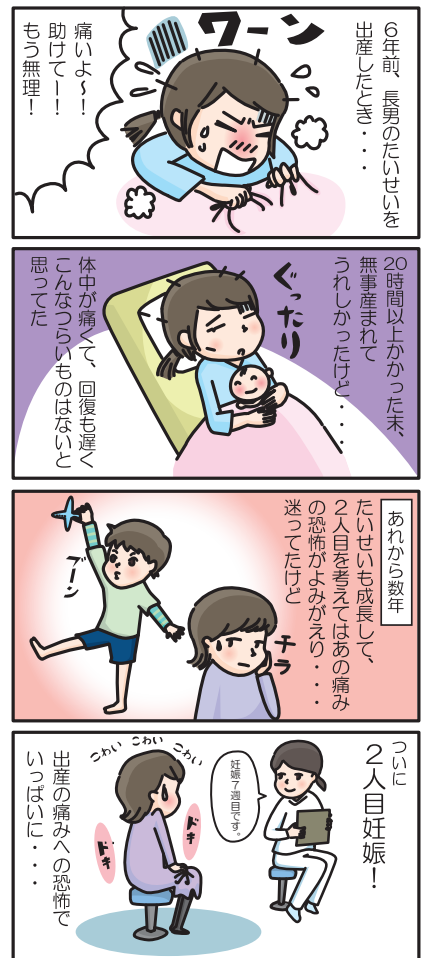
「硬膜外産科麻酔分娩」は、下半身だけへの痛み止めです。麻酔薬を背中から腰の背髄近くに注入されることにより、腰から下の感覚が鈍くなりますが、お母さんの意識がなくなることはありません。赤ちゃんの下降していく感じや子宮の収縮も感じることができるので、分娩時には子宮の収縮のタイミングに合わせて、ゆっくりいきみながら分娩をすすめることとなります。しかし、痛みの感じ方、麻酔の効き方も個々それぞれで違います。

また一方で、麻酔を使うと、一時的に血圧が低くなる場合があります。これは麻酔の影響で血管が拡張するからといわれていますが、ほとんどの場合、点滴などで回復します。

また、陣痛を弱くしてしまったり、進行が遅れ赤ちゃんが生まれるまでの時間が長くなる（遷延分娩）ため、陣痛を強くする薬（陣痛促進剤）を使用したり、吸引分娩が必要になることもあります。そのため、当院においては、産科麻酔分娩にあたり、点滴の血管確保、胎児心拍監視装置等を行い、母児管理を行い早期発見・早期処置に努めます。さらに、産科麻酔分娩時は、同意書の署名をお願いいたしております。

わたしの産科麻酔分娩体験

作・絵 ふくだじゅんこ



※アルテミス宇都宮クリニックで、実際に産科麻酔分娩をされた方のお話です